

仏教音楽

本願寺仏教音楽・儀礼研究所 ニュースレター

特集：音楽法要で用いる楽曲の選び方



『音楽礼拝——正信念仏偈による』経本・楽譜・CD

私たちの宗門において、音楽法要が初めてご制定となってから約半世紀がたちます^{※1}。そして去る2008（平成20）年には、来る親鸞聖人750回大遠忌法要に向けて、音楽法要として『宗祖讃仰作法 第三種』がご制定となりました。

一般寺院向けとしては、同作法に基づいた『宗祖讃仰作法（音楽法要）』が、伝統的な声明による『宗祖讃仰作法』とともに、各地のお待ち受け法要で依用されています。

『宗祖讃仰作法 第三種』と『宗祖讃仰作法（音楽法要）』は、策定にあたって「唱えやすく、大衆唱和の可能なもの」とすることが条件の一つとされたこともあり、その普及率は、従来の音楽法要と比べても、比較的高いものとなってきました。

しかし、実際の修行にあたっては、各現場において音楽法要の経験が少ないこともあり、研究所に対して様々なお問い合わせがあることも、また事実です。そこで本特集では、寄せられるお問い合わせのなかでも件数が多い、具体的な音楽（楽曲）の選び方について、ご紹介したいと思います。

音楽の求められる場面

『宗祖讃仰作法（音楽法要）』では、「頂礼文」をはじめ「正信念佛偈」、「和讃・念佛」、「回向文」といった、お唱えするご文の音楽（旋律）が定められています。しかし、僧侶の入退堂など、ご文以外の部分については、特定の楽曲が指定されているわけではなく、また音楽の依用そのものも任意とされている部分があるため、具体的な音楽の扱いについての問い合わせが、研究所に寄せられて

います。

音楽を依用したいと思われる場面としては、諸僧の入退堂をはじめ、登礼盤や降礼盤、献灯、献華、献香、献供などが挙げられます。

その他にも、達書の伝達をはじめ門徒総代焼香など、音楽法要では、各現場で法要の次第として組み込まれた内容に対して、音楽の依用を求めることが多いようです。

楽曲選択の基準

『宗祖讃仰作法（音楽法要）』のご文のように、ご制定となっている旋律（音楽）は、そのまま唱えていただくこととなります。しかし、選択が任せられている前述のような各場面では、何らかの基準をもって楽曲を選択しなければなりません。

まずひとつには、法要における各次第を念頭に創られた楽曲を選択する方法です。『宗祖讃仰作法（音楽法要）』策定時には、併せて制作された、登礼盤と降礼盤用の各楽曲があります（同作法用の楽譜 [B5版] に収載）。また『宗祖降誕奉讃法要 第一種』には、献供用の音楽として〈いちいちのはな〉が含まれています。

この他にも、法要の各次第を念頭においた楽曲が、いくつかあります（→表1参照）。それらの楽曲は、実際の法要等での各場面を念頭に作られているため、他の法要等においても比較的違和感なく依用することが可能です。

もうひとつには、みなさんが慣れ親しんでいる仏教讃歌などの楽曲を用いる方法です。そうした楽曲を依用することは、法要に親近感を抱いてもらい易いというメリットがあります。

ただし、それらの楽曲を選ぶと

きは、法要のために書かれたものではないので、楽曲の有する歌詞内容や雰囲気などが、法要の各場面に相応しいか否かに気を配る必要があります。法要の各場面で用いられることの多い仏教讃歌としては、表2をご参照ください。

演奏に際して

楽曲の選択に関しては、付随する事柄として、楽器の選択という問題があります。

各ご寺院における音楽活動には、仏教讃歌の合唱を始め、大正琴や雅楽など、様々な種類があるでしょう。各地のお待ち受け法要では、こうした音楽を縁とした教化活動を取り込むことも、ひとつの方法です。

また仏教讃歌を法要の各場面で依用する際には、讃歌衆による歌唱もよいのですが、場合によっては器楽のみの演奏とするケースも考えられるでしょう。具体的な事例としては、諸僧の入堂に際し、仏教讃歌の《四弘誓願》を雅楽演奏で行ない、荘重な雰囲気を創り出すことができたという報告も、研究所には寄せられています。

このように、法要の修行に際しては、各現場に応じた様々な工夫が必要です。その構成要素である音楽は、法要の演出（雰囲気作り）において大きなウェイトを占めるといっても過言ではありません。それだけに、楽曲の選択に際しては、実際に聴いてみることはもちろんのこと、所作等に合わせて演奏してみることも大切です。

※1：1963（昭和38）年『宗祖降誕奉讃法要 第一種』ご制定。

表1：法要の各次第を急頭においた楽曲

【諸僧の入堂】

- 〈入堂楽〉 『宗祖降誕奉讃法要 第一種』 に収録
- 〈入場〉 『音楽法要 おしょうしんげ』 に収録

【諸僧の退堂】

- 〈退出楽〉 『宗祖降誕奉讃法要 第一種』 に収録
- 〈退場〉 『音楽法要 おしょうしんげ』 に収録

【登礼盤】

- 〈登礼楽〉 『宗祖降誕奉讃法要 第一種』 に収録
- 〈登礼盤用音楽〉 『宗祖讃仰作法(音楽法要)』 に収録
- 〈登礼楽〉 『音楽法要 おしょうしんげ』 に収録

【降礼盤】

- 〈降礼楽〉 『宗祖降誕奉讃法要 第一種』 に収録
- 〈降礼盤用音楽〉 『宗祖讃仰作法(音楽法要)』 に収録
- 〈降礼楽〉 『音楽法要 おしょうしんげ』 に収録

【開扉】

- 〈金の扉〉 小松清作曲
- 〈いまささぐ〉 林良夫作曲

【献灯・献華・献香など】

- 〈いちいちのはな〉 『宗祖降誕奉讃法要 第一種』 に収録
- 〈献灯・献華・献供〉 『音楽法要 おしょうしんげ』 に収録
- 〈献灯偈〉 伊藤完夫作曲
- 〈献華偈〉 伊藤完夫作曲
- 〈献香偈〉 伊藤完夫作曲
- 〈憶念〉 森琢磨作曲

表2：法要の各場面で用いられることの多い仏教讃歌

【荘厳な雰囲気のある楽曲】

- 〈四弘誓願〉 小松清作曲
- 〈礼讃歌〉 藤井制心作曲
- 〈ほとけはつねに〉 橘静雄作曲
- 〈みほとけは〉 信時潔作曲

【明るく落ち着いた雰囲気のある楽曲】

- 〈真宗宗歌〉 島崎赤太郎作曲
- 〈衆会〉 平井康三郎作曲
- 〈数珠の歌〉 矢田部宏作曲
- 〈芬陀利華〉 山田耕筰作曲
- 〈私の中に〉 大栗裕作曲
- 〈ひかりあふれて〉 網沢僚作曲

【明るく広がりのある楽曲】

- 〈みめぐみの〉 古関裕而作曲
- 〈人の世の〉 服部正作曲
- 〈咲き匂う〉 平井康三郎作曲
- 〈生きる〉 森正隆作曲

【日本的な雰囲気のある楽曲】

- 〈法の深山〉 雅楽《越天楽》より
- 〈きよけきひかり〉 日高脩作曲

【落ち着いた叙情的な楽曲】

- 〈いのち〉 下総院一作曲
- 〈み仏にいだかれて〉 野村成仁作曲

※特定行事および教化団体用の楽曲は含んでいません。

『音楽礼拝 ―― 正信念仏偈による』 ご制定

このたび、標記の音楽礼拝がご制定となりました。

音楽礼拝は、西洋音楽のスタイルによるおつとめで、第二次世界大戦後の京都女子大学で、学生のおつとめとして行われるようになりました。その後、各宗門関係学校にて普及し、その卒業生が婦人会などで依用することで、さらに宗門内において広がることとなります。

当初は、意識聖典をご文として、「さんだんのうた」や「ちかいのうた」などを中心におき、「敬礼文」「三帰依」からはじめ、「念仏」で終わるというスタイルで普

及していきました。

その後、私たちの宗門では、重誓偈をご文とする『宗祖降誕奉讃法要』など、各種の音楽法要の制定もあり、音楽礼拝の内容も、様々に変化するなかで、つとめられるようになります。

しかし、音楽礼拝として制定されたものはなく、現場には同時に、若干の混乱が見られることもあるようで、研究所には、音楽礼拝の組み立て方についてのお問い合わせも、比較的多く寄せられています。

この音楽礼拝は、「お正信偈の音楽礼拝を」という声に基づいて、

ここ数年、御堂演奏会で実際におつとめしてきたもので、このたび、宗門として正式にご制定いただきました。

構成としては、「敬礼文」と「三帰依」にはじまり、「正信念仏偈」、「念仏」、「回向」と、一般的なおつとめに倣ったものとなっています。

なお経本、楽譜、CDについては、本願寺出版社にてお求めください。

経本：210円
楽譜：315円
CD：1,050円（各税込み）

研究所通信

御正忌報恩講 奉讃演奏会2011 (予定)

御正忌恒例となりました奉讃演奏会を、下記の通り開催いたします。

本願寺合唱団の演奏に加え、相愛大学の先生方による声楽アンサンブルをお届けする予定です。

また、第3部では、会場の皆様とともに歌うひとときをご用意しております。皆様のご来場をお待ちしております。

日時：2011 (平成23) 年
1月15日 (土)
15:30開場 16:00開演
会場：本願寺 聞法会館3階
多目的ホール



奉讃演奏会2010より (本願寺合唱団)

出演：第1部 本願寺合唱団
第2部 声楽アンサンブル
(相愛大学教員による)
第3部 本願寺合唱団
※入場無料



同第2部
京都女子大学教員によるアンサンブル

一緒に歌おう仏教讃歌

仏教讃歌を歌ってみたいけど、経験がなくて… — 研究所では、そんな方が気軽に集うことのできる会として、標記の催しを開催しております。毎回、30名あまりの参加者を迎え、和やかな雰囲気の中で、様々な仏教讃歌に親しんでいただいております。経験の有無は問いません。皆様のご参加をお待ちしております。

【練習日時】

毎月第1水曜日 11時～12時

【会場】

聞法会館 総会所

※練習日時および会場につきましては、都合により変更となる場合があります。

【2月・3月の予定】

日時：2011 (平成23) 年
2月2日 (水)、3月2日 (水)
いずれも11時～12時

参加費：無料

※1月はお休みです。



第3回ロビーコンサート (2010年3月24日)

一緒に歌おう仏教讃歌 第4回ロビーコンサート

日頃の練習成果を発表すべく、下記の通りコンサートを開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

日時：2011 (平成23) 年
3月23日 (水)
12時20分～50分

場所：聞法会館 1階ロビー
曲目：《聖夜》《念仏》ほか

※入場無料



練習風景

本願寺合唱団 団員募集

本願寺合唱団は、仏教讃歌を中心とした演奏活動に取り組んでいます。例年の主な演奏実績としては、

- ・御正忌報恩講奉讃演奏会
- ・大谷本廟総追悼法要
- ・大谷本廟龍谷会
- ・療養施設訪問演奏会

などが挙げられます。

現在、団員（特に男声）を募集しております。仏教讃歌の混声合唱に関心がある方は、ぜひ見学にお越しください。

【練習日】

毎週月曜日19時～21時

※都合により、変更となる場合があります。見学の際には、事前にご連絡ください。

【練習会場】

当研究所 練習・視聴覚室
(本願寺第3庁舎2階)

【指導者】

音楽監督・常任指揮者

鈴木捺香子

(関西合唱連盟理事・京都府合唱連盟副理事長・当研究所客員研究員)

常任伴奏者

丸山千晶

(龍谷大学短期大学部講師・当研究所委託研究員)

【団費】

月額2,000円(学生1,000円)

【入団申込方法】

所定の申込書に必要事項を記入のうえ、当研究所までお申込みください。

※合唱団に関するお問い合わせ、申込書の請求は当研究所まで。

※申込書は当研究所ホームページからもダウンロードが可能です。

資料を探しています

皆様のお手元に仏教音楽関係の資料(楽譜・音源など)はございませんでしょうか。



研究所収蔵資料(一部)

当研究所では、仏教音楽関係の資料を恒常的に収集しております。なかでも楽譜資料に関しては、楽譜点数で現在、約4600点を数えるに至りました。しかしながら、今なお所蔵資料として新たに追加される楽曲も少なくありません。これはまさに仏教音楽の多様性を物語っているとも言えるでしょう。

研究所では、皆様からの仏教音楽に関する資料・情報のご提供をお待ちしております。下記の資料をお持ちの際は、研究所までご一報いただけましたら幸いです。

●皆様の地域やご寺院において親しまれている楽曲の楽譜・音源

●新たに創作された楽曲の楽譜・音源

など

なお、送付いただきました資料は研究資料として収蔵させていただきます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

2010年度研究スタッフ

所長 小野 功龍(雅楽研究)

〔仏教音楽部門〕

主任・常任研究員

福本 康之(芸術学)

研究員 今小路聡子(声楽研究)

波々伯部宏彦

(アート・マネジメント)

山口 篤子(音楽学)

研究助手 戸田 直夫(音楽学)

客員研究員 尾家 京子(音楽教育学)

鈴木捺香子(合唱音楽研究)

委託研究員 荒川 恵子(音楽学)

石川紀久子(音楽学)

寺内 直子(芸術学)

藤田 隆則(芸術学)

藤林 由里(作編曲)

丸山 千晶

(ピアノ演奏研究)

研究生 田村菜々子(民族音楽学)

西田 佳代(声楽研究)

2010(平成22)年4月1日現在

(各五十音順)

『宗祖讃仰作法 音楽法要』 練習用CD配付中

『宗祖讃仰作法 音楽法要』の練習用音源(CD)を無料にて配付しております。ご希望の方は当研究所事務局までお問い合わせください。また、親鸞聖人750回大遠忌法要のホームページからもダウンロードが可能です(下記URL)。
<http://daionki.hongwanji.or.jp/eizou-ongaku/index.php>

交流のひろば

アナンタ・ゴーシャ

奈良教区寺族女性会連盟
コーラスグループ



練習風景

仏教讃歌を通して、阿弥陀様のみ心に少しでも触れさせていただきたい—このような願いから、アナンタ・ゴーシャは結成されました。1989年1月の発足以来、「無辺の響きあり」という意味の団名の通り、おみのりの響きを伝えて

います。

現在、団員は約30名。皆さん、法務や家事で忙しいうえに、南北に長い奈良県では、県全域から練習に集まるのも一苦労なのだとか。それでも月1回の練習には、萩野真貴子さん（宇陀北組円隆寺坊守）の丁寧な指導で一生懸命歌い、おしゃべりで交流も深めよう、と多くのメンバーが顔をそろえます。

アナンタ・ゴーシャの演奏は、教区の報恩講や行事では恒例となり、近年では組や寺院から演奏の依頼も受けるなど、活動の場が広がってきました。ただ、委員長の藤満典子さん（奈良組五劫寺坊守）によれば、悩みの種は若い世代が少ないこと。奈良教区では仏教讃歌の会を開催している寺院も少なくないので、そのような草の根的

な活動といかに連携を取っていくかが、解決の鍵になりそうです。

2011年3月の奈良教区親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要では、「宗祖讃仰作法（音楽法要）」がおつとまりになります。「参拝者とご一緒に、親鸞聖人のお徳を讃える歌声でお御堂をいっぱいになりたい」と、ますます練習にも熱が入るアナンタ・ゴーシャの皆さんでした。



第22回 仏教大講演会（2010年7月5日）

コール・サンガ

鹿児島教区仏教婦人会連盟



「秋風とコーラスのつどい」
コール・サンガの演奏風景

桜島を眼前に眺める鹿児島別院—ここで月2回、仏教讃歌の練習に励んでいるのが、「コール・サンガ」の皆さんです。

1989年に発足し、「それぞれの味わい方を大切に」という賞雅征子さん（鹿児島組明信寺坊守）の指導のもと、音楽法要や讃歌指導、訪問演奏などを行ってきました。近年では、別院の報恩講をご縁に、教区内で活動する合唱団から参

加者を募って仏教讃歌の演奏会を催すなど、サンガは鹿児島教区の仏教讃歌活動を支える存在になっています。

このような活動の中でも注目すべきは、若婦人を対象とする合唱団「コール・マイトリー」（2003年結成）との連携でしょう。幼い子どもがいて、練習に参加しにくいお母さん達のために、マイトリーの練習時には、サンガの皆さんが交代でベビーシッターを引き受け、サポートをしているとのこと。一緒に演奏する機会も多い両合唱団は、「『助け合い、支え合い』の仏婦精神で」（団長の関久代さん談）、日頃から絆を深めています。

2010年9月10日には、福井教区から「コール無憂華」を招き、基幹運動研修会の一環として、ジョイント・コンサート「秋風とコーラスのつどい」が開催されました。サンガはマイトリー

とともに、谷口修美さん（南隅組光徳寺住職）の指揮で《囁きたもう》《み仏はほほえみて》など4曲を披露。やや緊張した面持ちながら、1曲目から普段通りのパワフルな歌声を聴かせてくださいました。最後のステージでは、コール無憂華、マイトリー、そしてサンガによる合同演奏の後、会場の400人あまりで《しんらんさま》を大合唱。別院本堂が温かく大きな拍手に包まれる中、演奏会は幕となりました。



「秋風とコーラスのつどい」
出演者の皆さん

CDのご紹介



**よろこび
歓喜**
電子オルガンで弾く
仏教讃歌

【定価】
本体2,500円＋税

楽譜集『電子オルガン用仏教讃歌（中級編）』収載曲（29曲）のモデル演奏（歌唱なし）。
※カセットテープ版あり



**ひかりあふれて
行事でうたう
仏教讃歌**

【定価】
本体2,427円＋税

《真宗宗歌》《小さきあこに》《春あなたに》《ひかりあふれて》《旅ゆくしんらん》《報恩講の歌》《恩徳讃》（清水脩作曲）を収録（全曲カラオケ付）。
※カセットテープ版あり



**ののさまといっしょ
ほとけの
こどものうた**

【定価】
本体2,427円＋税

《幼児のおつとめ》の他、《ほとけさま》《ののさま》《きゅきゅつきゅ音頭》など、子どもと歌う“ほとけさまのうた”36曲を収録（歌唱あり）。



**微妙音
浄土のしらべ**

【定価】
本体2,913円＋税

法要・儀式での活用に適した荘厳な調べ。シンセサイザーと邦楽器による《組曲楽邦》（牛尾孝慈作曲）、雅楽合奏による《頌音五章》（芝祐靖作曲）を収録。



**和雅音
荘厳の音楽**

【定価】
本体2,427円＋税

B.G.M.としての活用に適した仏教讃歌の器楽演奏（歌唱なし）。《芬陀利華》《礼讃無量寿》《みめぐみの》《人の世の》《生きる》《いのち》《聖夜》など全17曲。



**響流十方
みんなでうたう
仏教讃歌**

【定価】
本体2,427円＋税

《どこにもひかりが》《小さな灯》《そんなときわたしはくちずさむ》《追悼の歌》《名もない今日を》《花のころ》《手と手の中で》など全16曲の合唱。



**憶念
つどいの音楽**

【定価】
本体2,427円＋税

《恩徳讃》（澤康雄作曲）《衆会》《憶念》《白道》《仏教徒の歌》《合掌の歌》《山科の路》など全16曲を合唱にて収録。



**ほほえみとともに
うた
よろこびの合唱**

【定価】
本体2,381円＋税

《宗祖降誕会》《アソカの園》《ありがとう》《やさしさにであつたら》《いのちまいにちあたらしい》《ほほえみとともに》など全14曲の混声合唱。



**いのち
仏教讃歌混声合唱集**

【定価】
本体2,191円＋税

《わたしのなかに》《みほとけのほほえみに》《ゆるされし》《わがわいの》《いのち》など全18曲を混声合唱にて収録。
※カセットテープ版あり



**歎異抄より
四つの有縁の歌
混声合唱曲集**

【定価】
本体2,191円＋税

《讃阿弥陀仏偈和讃》混声合唱組曲《『そよ風のなかの念仏』より》《歎異抄より四つの有縁の歌》《ある少年の死》を収録。
※カセットテープ版あり



**日々のうた
～念仏～**

【定価】
本体2,000円＋税

《念仏》《しんらんさま》《いつか私は》《みほとけにいだかれて》など全12曲（歌唱あり）。
※カセットテープ版あり



**音楽礼拝
正信念仏偈による**

【定価】
本体1,000円＋税

モデル演奏、カラオケ（リード歌唱あり・なし）等を収録。
（別売）経本 本体200円＋税
楽譜 本体300円＋税

ご注文は本願寺出版社まで

フリーダイヤル：0120-464-583

ウェブサイト：<http://hongwanji-shuppan.com/>

お知らせ

『親鸞讃歌』五部作のオリジナル音源復刻

白い小径こみちがありました～ ———— このような歌詞ではじまる《旅ゆくしんらん》は、宗祖親鸞聖人の御生涯を慕う歌として、広く親しまれています。しかし、この作品が『親鸞讃歌』五部作の一曲であることは、あまり知られていません。

『親鸞讃歌』は、親鸞聖人700回大遠忌法要の気運を高めようとの思いから、釜瀬春鳳（詞）と升田徳一（曲）により創作されました。五部作は、《旅ゆくしんらん》の他、《偲びまつりて》《さすらいのしんらん》《しんらんさま》《たたえまつりて》の各曲で構成されています。

このほど、50年前の音源制作に携わった登世岡浩治さん（安芸教区広陵東組安樂寺前住職）が、750回大遠忌にむけての気運高揚にと、当時の音源をCD化し、発刊されました。この五部作を通して、親鸞聖人の御生涯に思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。



『親鸞讃歌』

CD 800円 楽譜 200円

※別途、送料(実費)が必要です

【お求め・お問い合わせ】

浄土真宗本願寺派 安芸教区教務所

TEL: 082-231-0302

2011年度の御堂演奏会について

2011年度の御堂演奏会は、宗祖親鸞聖人の大遠忌法要にちなみ、記念行事（名称未定）の一環として、日程を変更のうえ、規模を拡大して開催の予定です。詳細は決まり次第、本願寺新報・宗報・当研究所ウェブサイト等でお知らせいたします。

開催日

2011(平成23)年
11月8日(火)

会場

本願寺 御影堂

2011年度は1回のみ開催です

仏教音楽

本願寺仏教音楽・儀礼研究所 ニュースレター 第12号

発行日：2010（平成22）年11月30日

編集：本願寺仏教音楽・儀礼研究所

発行者：浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター 所長・佐々木恵精

〒600-8349 京都市下京区堺町92番地 本願寺第3庁舎内

Tel.: 075-371-9244 Fax.: 075-371-5761

<http://crs.hongwanji.or.jp/ongi/>

頒 価：無料